

大阪府退教情報

2024年6月11日

発行第59号

発行者:大阪府退職教職員連絡協議会

代表:青柳 隆

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町

7-11 大阪教組気付

電話 06-6762-7999

大阪退職者連合

2024 高齢者集会開催

「ジェンダーと社会保障」 伊田広行さん(立命館大学教員)講演

6月4日、大阪退職者連合による「2024 高齢者集会」行われました。

集会の第1部として、立命館大学大学院教員である伊田広行先生の「ジェンダーと社会保障」という講演でした。



伊田さんの的確な話に
聞き入る参加者

伊田先生はかなり若い時から「ジェンダー問題」については第一人者で、私も何回かお話を聞く機会がありましたから「伊田先生雰囲気変わらないなあ、でもやはりちょっとお年をとられたかなあと」思ったのが第一印象でした。

話は、日本のジェンダーは遅れていて、世界的に先進国の中でもジェンダー指数は低く最低に近いところにいること。その日本では子ども時代から「男らしく」「女らしく」とか「夫が家の大黒柱で妻は夫を支え家庭のことをするのが普通」とかそれを具現化する税金のあり方だったり、「人は誰でも異性愛であり、結婚して子どもを持つことが幸福のシンボル」のような思い込みや社会的な刷り込みがずーっと当たり前として続いて来っていたこと。そして、社会保障の仕組みも「男」片働

き世帯をモデルに家族単位で行われてきていたこと。しかし、今少子高齢社会を迎え、そのズーと当たり前とされてきた社会保障制度が通用しなくなってきており、いろんな課題が出てきている。(高齢女性の貧困化・介護による離職者の生活困難・介護労働者の低賃金・世代間不平等などなど) 社会保障制度を、持続可能な社会にしていくためには社会保障制度を皆に平等で「様々な生き方に平等な設計」にしていくことが求められている。

じゃあどうすればいいのか?という、古い家族像(異性愛ジェンダー性別役割、両親子どもがいる愛の場所など)を超えて、一人世帯も含め、多様な家族像を認め、支え合う社会へ変革していく必要がある。そして、そのためにも、社会の最小単位を今までの世帯単位から個人単位にする事が大切である。

個人単位をベースにして、税金も個人単位、同一労働同一賃金、女性も働くことは当たり前、家族单位的な手当（児童手当・学費無料など）は廃止、高齢者福祉、介護制度なども個人単位で保証、労働時間を短縮し育児や介護も分担していく、など、ジェンダー平等の実現と社会保障制度の持続は表裏一体であり、その実現こそが社会保障制度の持続可能な社会への転換に繋がるのだ。
と言う内容であった。

世帯単位から個人単位へと長い間私たちも言い続けてきたが、この社会保障制度の諸問題解決のためにもそれが大事との話にあらためて納得し気を強くした！ジェンダー平等こそが持続社会の要であると再認識した！（文責 脇本）

府退教第 78 回ゴルフコンペ

好天に恵まれた6月3日、第78回府退教ゴルフコンペが堺カントリークラブで70名が参加し、3コースに分かれ熱戦が繰り広げられました。府退教コンペは年4回の開催。2024年度の初回となる今回のコンペ。3月以来、久々に顔を合わせる面々。スタート前からパター練習の合間に談笑する姿があちこちで見られました。今回は貝塚市退教が全面的に企画と運営を担当。コンペ終了時の表彰式では冒頭、長らくコンペの府退教担当をしていただいていた亡くなられた山口成幸さんを黙祷で追悼。優勝は大阪市の山本剛史さん。次回第79回は9月27日金曜日、グロワールゴルフ倶楽部で開催致します。（文責 青柳）



優勝した山本さん（左）

優勝	山本 剛史（大阪市）
2位	大谷 健治（大阪市）
3位	畑中 俊夫（貝塚）
4位	奥野 宏（上六）
5位	首藤 修一（守口）
6位	岡 修（松原）
7位	北 啓二（吹田）
8位	橋田 寛人（大阪市）
9位	今田 和正（貝塚）
10位	河野 誠（東大阪）